iO

Hoshino Mari

Photographs by Nomura Seiichi

1996-2001

iO

Hoshino Mari

Photographs by Nomura Seiichi

1996-2001

イタリアに行くことになった！！　初めてのイタリア…どこにある？

iO

Hoshino Mari

Photographs by Nomura Seiichi

1996-2001

io。私。

ここにいる私も私。今の私。今しかないこの時を素敵な方法で形にできたらと思う。

12時間のフライト。いつもの生活で考えると朝8時から夜の8時。
ずっと飛行機に乗っているわけだから、そりゃ大変なわけだ。

素敵な映画を見ました。純粋で美しく、心に響く恋のお話。恋する勇気と少しの幸せもらいました。

コーディネーターのアレッシオさん。日本人の奥さんをもつイタリア人。だから日本語も少し話せる。
独特のイントネーションをもつ「そーだね。」「そうかな。」「たしかにね。」そして言うと笑う「バカヤロー。」

いつまでも変わらないものってあるのかな。

イタリアを離れるのはさみしいけど、やっぱり日本にかえるのは、とてもうれしい。

いつか私もイタリア語話せるようになってやる。

ついさっきまでの出来事が夢のよう。今いるここが夢のよう？

会話って不思議。それぞれが自分の言いたいことを言い合っているだけなのに
なぜか続いて、本人達は楽しそう。

もう1人のコーディネーターの小林さん。こっちに住んでいる日本の方です。長い髪が印象的。日本からムースをとりよせてるんだって。いいのがでたら教えてあげよっ。

中華を食べに行ったらおいしくて翌日の分も作ってもらった。ところが気温が高くて
腐ってしまって…。そんな時、隣のおばさんがリンゴを分けてくれました。
こんなにおいしいリンゴは初めてでした。

飛行機内のびっくり事件

映画を見ていた。ふっと顔をあげると周りのみんな（っていうのは大げさだけど）
手をあげてた。
何！？って前の大画面見たら機内での体操の番組。あー、びっくり。

あと6泊。こっちが嫌なわけでも楽しくないわけでもないけど、日数を数えてしまっています。

何か書きたいけど何を書いたらいいのか分からない。いろんな事思ったり考えたり
いるはずなのに。言葉にするのは難しい。

飛行機内のびっくり事件　　part2
化粧室に入った。鏡を見るとお気に入りの黒のニットが所々白くなっている！！
え〜、先きほど食べたお菓子でした。

バスの後ろの窓からおじさんに手をふりました。おいしいご飯をどうもありがとう。

2人目のドライバーさん。今日は頭が痛いって。でも薬を飲むにしても眠くならないのにしないといけない。
みんなそれぞれの世界でそれぞれの常識の中で生きているんだって知った。

全てのの撮影が終わった日、スタイリストのタマさんとメイクのユミさんから手紙を
もらいました、小さな紙に。それは小さな思い出だけど、とてもとてもうれしかった。

私の嫌いなもの。おばけの話。

イタリアで覚えた、今一番お気に入りの言葉を教えます。「びっくり目」

OGNI PENSIERO VOLA

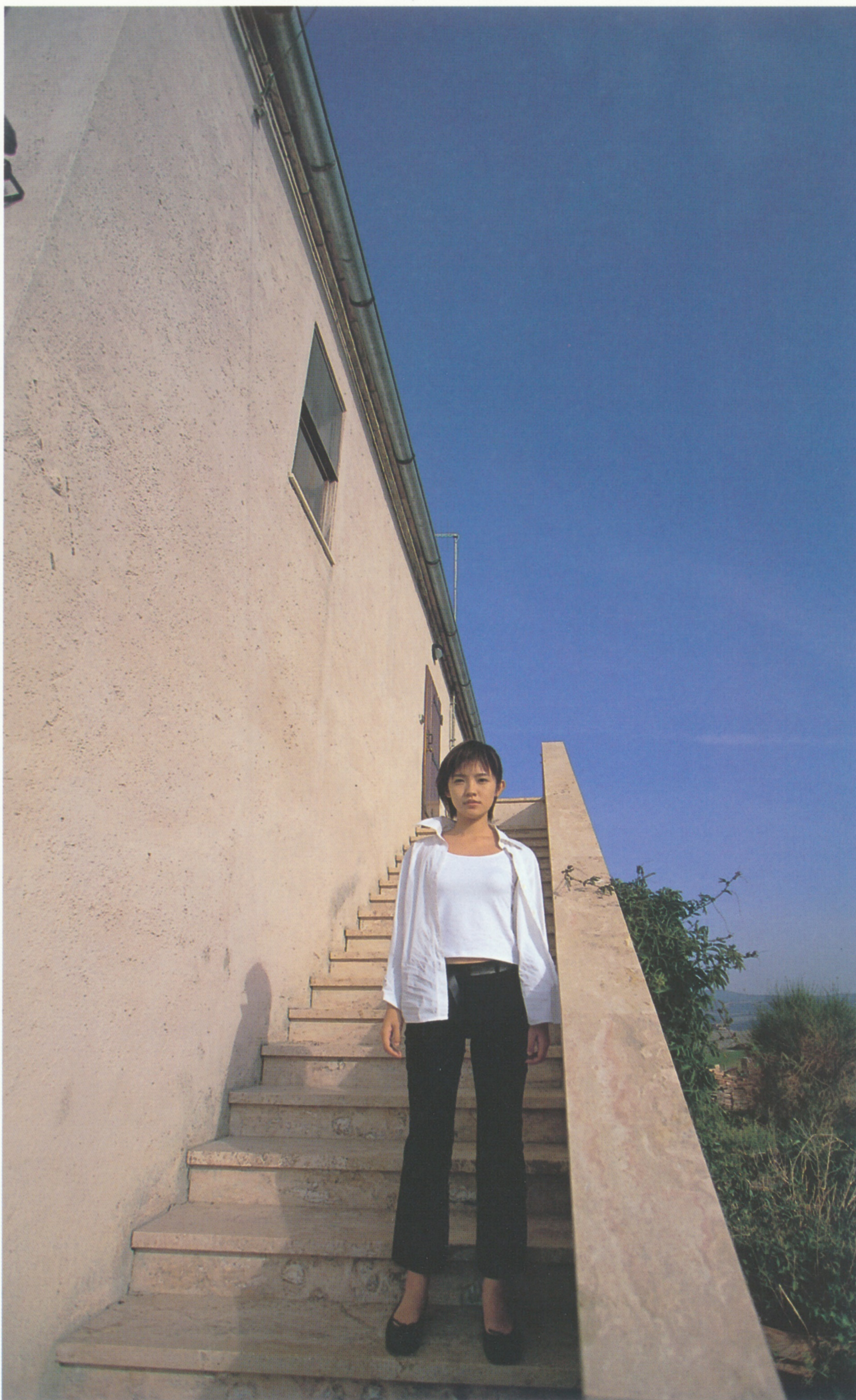
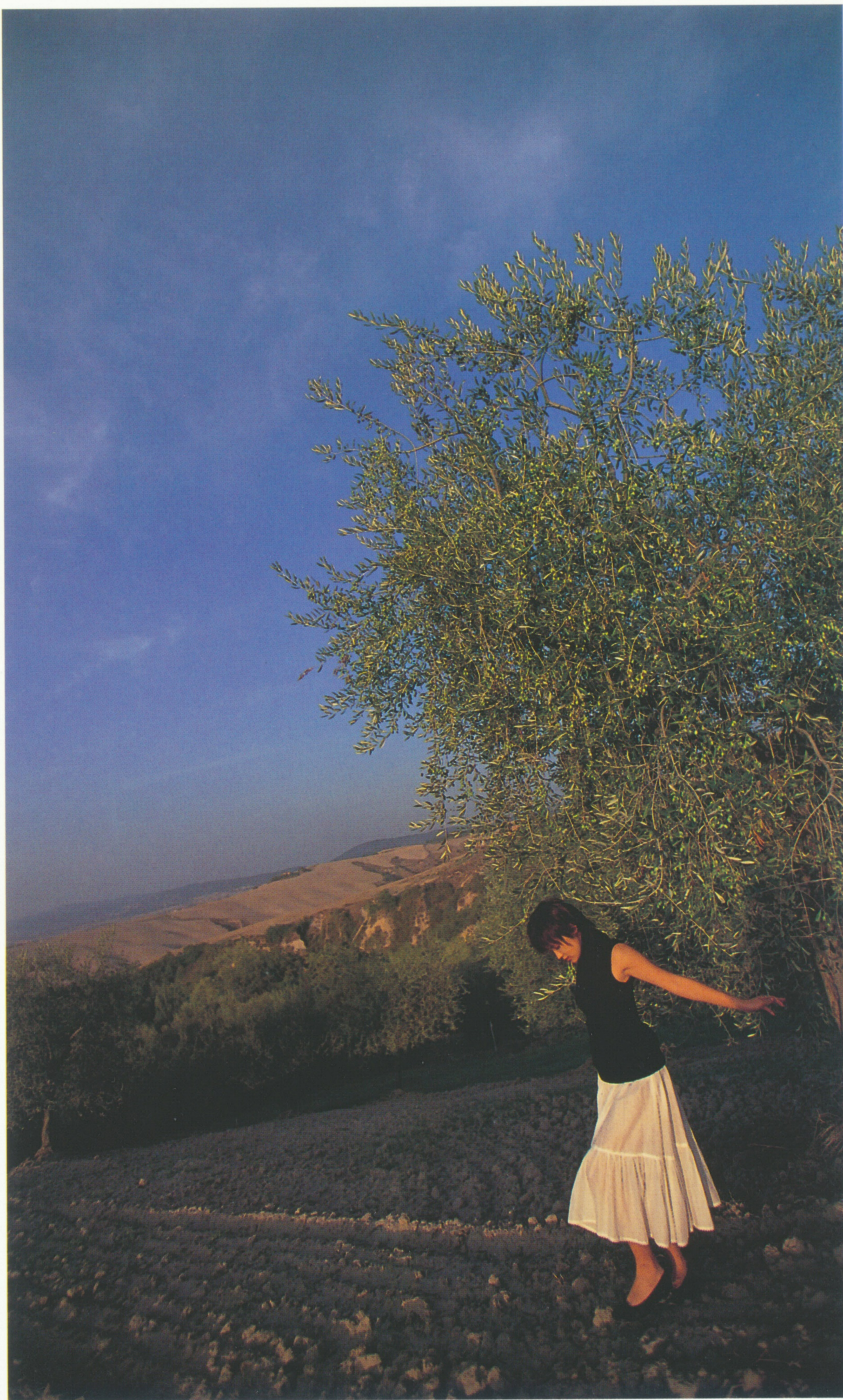
温かい食べ物ってなんでこんなに心休まるのだろう。

フィレンツェ。この街の雰囲気、好きです。

人は一人じゃ生きられない。でも誰かと一緒に生きていくって大変なことだよ。

そっとつまんだブドウの実は少しすっぱい味がした。

クロワッサンはハチミツをつけて食べる。すごくおいしい。朝から幸せ。

買い物の時に必要かもってパスポートの写真が載っているページのコピーをもらった。
そしたらね、私の社長は顔がなかったの！そこまで黒くないのに。笑わせていただきました。

私は１人で静かにしてるの好きなんだ。だから私にかまわないで。

野村さん。見れば見るほどクマさんに見えてくる。フフッ。ちなみに私はクマさん大好きです。

かわいいお店発見。今年はセーターが着たい気分。

イタリアのコーヒーはおいしいって。私もよくコーヒーを飲むけどあまり違いが分からない。でもみんなが喜んでいるから、私も満足。

なんてかわいいのだろう。やわらかな肌、髪、小さな唇、手。人に自然微笑みをくれる。生命の誕生って やっぱりすばらしい。

ゆっくりご飯をたべられるのっていいですね。

野村さんはよくしゃべる。どこで笑えばいいんだろう。　by 藤賀

自分の話を聞いてくれる人がいること。自分に話をしてくれる人がいること。本当に
幸せなことです。

目ぶたが重くなってきた。イタリアの最後の夜が過ぎてゆく…

やっぱり帰るのが少しさみしくなる。

ひとつの別れがあってひとつの出会いがある。どれも私にとって欠くことのできないもの。

1つのものを見ても人それぞれ感じ方が違う。

帰れる場所がある。帰りを待ってくれる人がいる。

真実の口。本物を見ることができて感動した。もう一度映画を見たくなった。

終わりよければすべてよし。

私の大好きなもの。チョコレート。でも今は禁止中。目標達成まではね。

日差しが強い。これから冬になるのに黒くなっちゃうよ。

口笛で1日が始まる。笑顔であいさつ、ボンジョルノ。

何でこんなに眼がさえているのだろう。あっ、そういえば目がスッキリする薬、もらって飲んだっけ。
昨日のお昼。ーーーありえない。

私は頭の中でいろんなこと想像するのが好きです。

時間がのんびり過ぎてゆく。

キウイの香りに包まれて、今日という日が終わってゆく。おやすみなさい。また、明日。

1つの旅でもこんなにいろいろな思いでがある。これだってほんの一部。
でも心の引き出しはそんなに多くないから知らないうちに失くしてしまう。
文字や写真に残してもそれでもたくさん失くしてしまう。そう考えると、
やっぱり今を大切にしていかないといけないなと思っています。

何にも考えずにただただ眠りつづけたい。

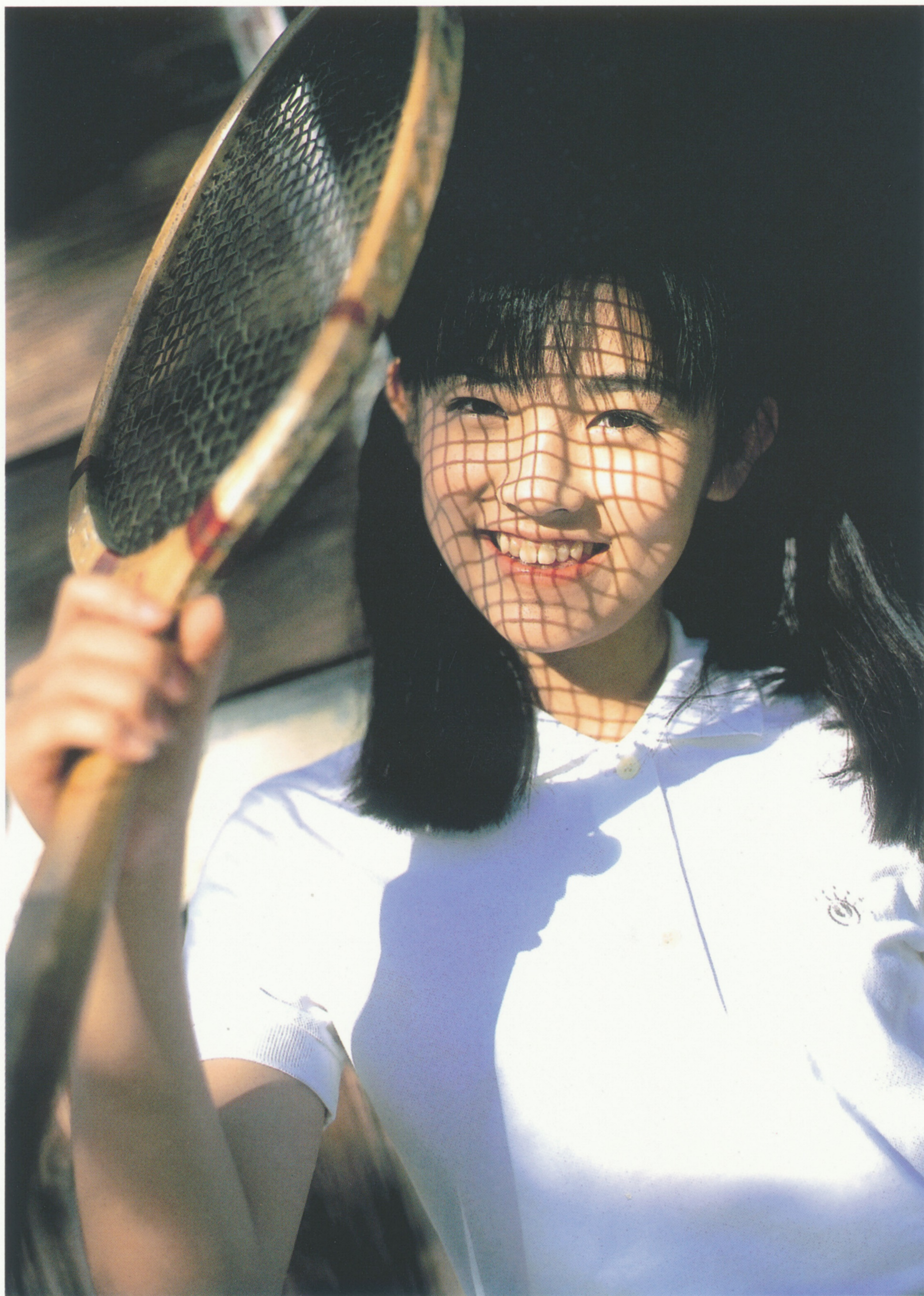
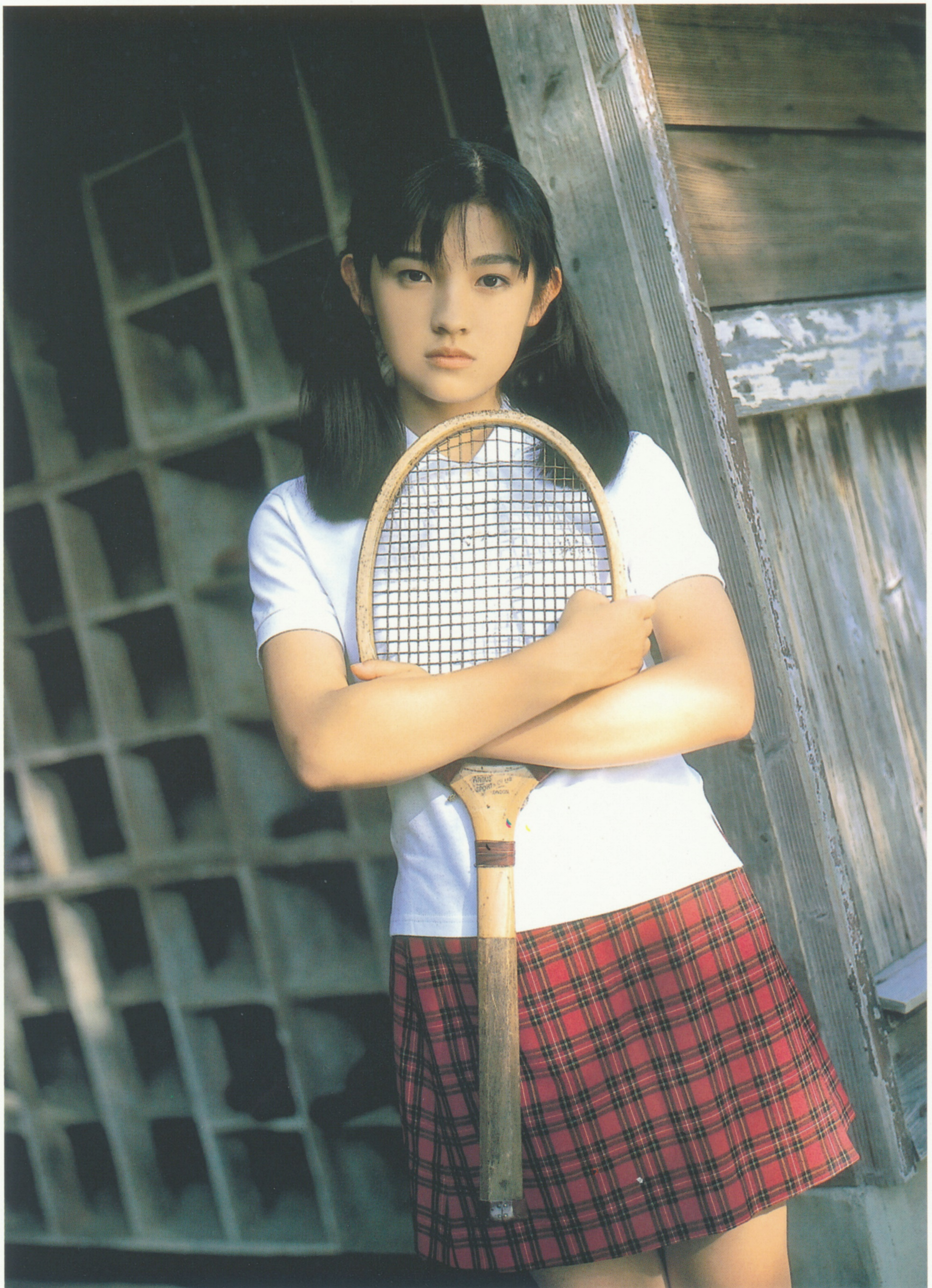
1人目のドライバーさんのおしゃべり度はすごい。休む暇なく話し続けている。陽気
なイタリア人の域を
超えてるって。

10時の鐘の音が私達を迎えてくれました。

また食べすぎたよ。帰ったら太ってるんだろうな…

1996 ・15才の夏 ・熊本
私のもう一つの人生の始まり

何を見ているんだろう

シャッターの音が心地よくて、でもみんなの視線がくすぐったくて。
これは今でも慣れません。

笑ったはずの私がいなくて、知らない子が笑っている
この驚きの初体験

写真ってすごいと改めて思いました。

昔の写真はやっぱり恥ずかしい

5年前の私をしっかりと見ることのできる今の私
5年後の私は今の私を笑って見ることができるかな

変わらないもの　持ちつづけられた喜び
変わっていくもの　悲しいけれどそれも喜び

１５歳の誕生日、九州でお祝いしてもらいました。
今でも大切にケーキの写真、持ってます。

初めてのグラビア
あまり人に言えないけれど
実は一番心に残っているお仕事なのです。

人間の記憶って不思議
考えれば考えるほど思い出がでてくる
え〜、もったいないので、またしまっておきます

Copy : HOSHINO MARI
Photographer : NOMURA SEIICHI
http://www.ns-eyes.com/
Produce : FUJIGA MIKIO
HORIBE MAMI
Hair & Make : ARAI YUMIKO
Stylist : UENO TAMAMI
Assistant Photographer : SENUMA MITSUHIRO
Art Direction : NOMURA SEIICHI
Design : SAYS
Printing Director : TSUBOMIZU SHINSUKE
Special Thanks to : UNIVERSAL MUSIC CO., LTD.
YOUNG MAGAZINE
JIGSAW TEL 03-3319-2151
KOOKAÏ / KRATISTOS TEL 03-3406-1913

星野真里写真集
「iO」

2002年1月20日 初版発行

発行者:平田昌兵
発行所:株式会社ワニマガジン社
〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地
TEL 03-3357-2911(営業) 03-3357-2978(編集)
印刷所:凸版印刷株式会社

Printed in Japan

9784898298350

920076027000

SBN4-89829-835-4
:0076 ¥2700E
発売：株式会社ワニマガジン社
定価：本体2700円＋税

Hoshino Mari
Photographs by Nomura Seiichi
1996-2001